

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成26年12月24日
タイトル	学校の「くわい」を収穫したよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成26年12月10日（水）福山市立川口小学校5年生100名が、校庭のミニ田んぼへ植えて育てていた「くわい」を収穫しました。

福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培し、農家の方から生の声を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について取材することで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

川口小学校5年生の小野先生のクラスの子も達が、先日くわい農家の種本さんの収穫を見学し、色々教えていただいた事を参考に収穫することになり取材しました。



天気は良かったのですが、とても寒い日で、冷たい泥に悲鳴をあげる子ども達ですが、冷たさに耐えて田んぼへ入り、手をつっ込んで「くわい」を探します。大きな「くわい」を見つけると誇らしげに見せてくれました。

「くわい」は、茎や葉が枯れた状態になっていて、まず茎を小野先生が鎌で刈りました。

つぎに、長靴にゴム手袋と準備万端の子どもや素足に素手といった元気一杯の子どもが、ミニ田んぼへ入ります。最初は表面の方だけ取っていた子ども達、小野先生が田んぼへ入り、深い所まで手で掘ってお手本を見せると子ども達も先生と同じように手で深く掘り、一生懸命「くわい」を収穫しました。





収穫した泥だらけの「くわい」は、水道できれいに洗いタライに入れていきます。いつの間にタライから溢れるほど沢山収穫していました。
もくもくと「くわい」を洗う子ども達！



休憩時間になり低学年の子ども達が通りかかりました。「くわい」の収穫を見て、「おいしそうなくわい！からあげが大好き！」「早く5年生になってくわい取りたいな！5年生かっこいい！」と言っていました。「くわい」の栽培が、川口小学校の伝統行事になって代々受け継がれているようです。



最初は「冷たい！寒い！」と言っていた子ども達ですが、最後に、先生がくわい収穫の感想をみんなに聞いたら「楽しかった！うれしかった！」と元気一杯に答えていました。

収穫の大変さを体験し、農家の方の苦勞を思う声や「くわい」の一粒も無駄にできないといった声も聞かれました。

子ども達は、調理実習の時間を利用して収穫したくわいを料理するそうです。

みんなで収穫がんばりました！！



